



くらやみの ゾウ

ジャバアービン再話 イェルチン絵 やまぐちふみ お ひょうろんしゃ
山口文生訳 評論社

大金^{おおがね}もちのしょう人^{にん}アフマドは、とてつもなく大きくて
ふしぎな生きものを、とおくインドからつれ歸^{かえ}りました。
大きな生きものって、いったいなんだ？ 村人^{むらびと}たちは、
くらいくらの中^{なか}にいる生きものにさわり、「へびみたい
だ！」「木^きのみのきのようにだ！」「まるでうちわだ！」と、
自分^{じぶん}の言^いい分^{ぶん}をおしとおします。一^{いち}
日^{いちにち}じゅうけんかをつづけ、その生き
ものが、くらの外^{そと}に出てきて、だ
れも氣^きがつきません。ほんとうのす
がたを知^しっているのはだれ？ ペルシ
ヤのふるい詩^しをもとにした絵本^{えほん}。

